

報恩講

題字 松川裕子

浄土真宗本願寺派妙徳寺
(安芸教区志和組)
発行責任 寺報編集委員会
東広島市八本松町飯田六〇二
電話〇八二四二八〇一四四



報恩講をお勤めしました

十一月二十五日に当山の報恩講をお勤めいたしました。前日準備にお集まりくださった皆様、お参りいただきました皆様、ありがとうございました。

報恩講は親鸞さまの祥月命日(新暦一月十六日、旧暦十一月二十八日)を前にお勤めするご法事です。浄土真宗で最も大切にされる行

事で、本山でも各地方の寺院、各家庭においても毎年報恩講を勤める伝統があります。こうした営みによって親鸞さまの教えは受け継がれてきました。皆ともにお寺に集い仏法を聴聞し、語り合いたすけあう、そうした場であったのだと思います。

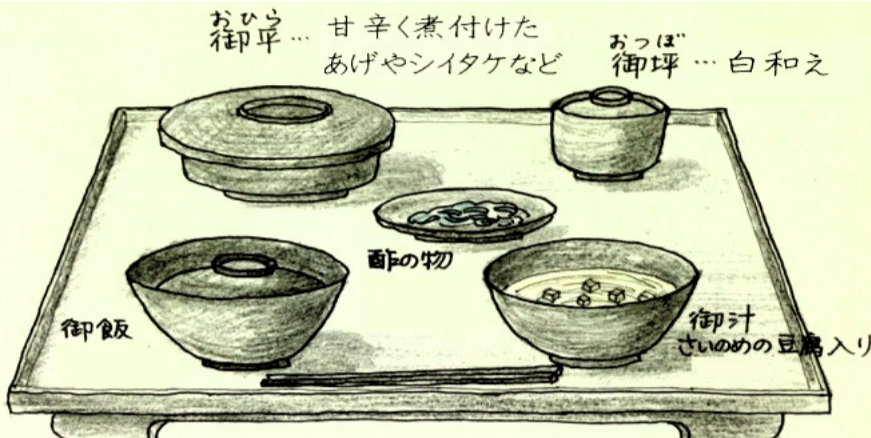
なれば、食事が必要です。仏事においての食事はお齋と言います。これも大切な仏縁の場です。ただ空腹を満たすためではない、他の生命をいたさず我が生命をつなぐこの一食、この上はこの生命を他のために役立てることが出来ますよう精一杯努めましょう、という心得で食事をいただきます。

準備、調理、接待をしてくださっていました。感染症拡大防止対策のためお齋を中止した二年をはさんで、昨年からは外部から購入したお弁当で再開いたしました。今年も同様にお精進弁当を購入してお齋をいただきます。

皆ともに親鸞さまの教えにしたがって仏さまのお話をじっくりと聞かせていただき、食が身に満ちていくように、仏法が心を満たしてくださる、これからもそのような報恩講でありたいと思います。



報恩講の法話講師は呉市から長岡正信師をお迎えしました。「真宗の柱」つまり教えの要についてのお話を聞かせいただきました。



伝統的なお齋のイラストです。このようにお膳を組むことを基本とし時代で変化しましたが、精進料理であることは守られてきました。

一語法話

如来世に興出したもう
所以は
唯弥陀の本願海を
説かんとす
「正信念仏偈」

積尊は八万四千の法門を開き下さったといわれます。それだけ多くのお経をお説き下さり、たくさんのお齋の御飯をお教えくださいます。阿彌陀如来の教えはその一つに過ぎないと

受け止められがちですが、親鸞さまは「そうではないのだよ」としっかりとこころを押しさえてくださっているのです。



「DVD王舎城物語 佛説観無量寿経」(著作:スネイル教材研究所) 韋提希がお釈迦さまの前で嘆きの吐露をする場面から

「観無量寿経」

王舎城が舞台です。冒頭、わが身の上(起)つた悲劇を嘆き愚痴を吐く王妃

韋提希を静かに見ておられた釈尊でしたが、韋提希の求めに応じて多くの仏の世界をお見せになる。見終わってお礼申しつつ阿彌陀の浄土に生まれたいと願う韋提希に、釈尊はニッコリと微笑され、ここから阿彌陀

如来の話を話される、このお経はそういうないきさつで説かれているのです。韋提希の姿は私たちそのものです。思い通りになれば自分の力、そうでなければ他人のせいにして、我が身を振り返ることなく常に他

ライン登録のお願い

風水害や土砂災害、震災など毎年頻発しており、急な予定変更などをすぐに連絡をお送りできる方法を持つておくことは必要なことだと思います。そこで最近多くの方がご利用されているラインアプリを使っ



このQRコードを読み込むか、@985fghgyを検索してください

行事予定

新型コロナウイルス感染症リスク軽減を目的に法座回数を当面減らすこととしています。ご了承ください。

十二月二十五日(月)午後一時から二時
年末お掃除

大晦日 午後十一時半から
除夜会(じよやえ)

元旦 午前十時より一時間半
修正会(しゅうしょうえ)

一月九日(火)午前九時、午後一時

御正忌法要(おたんや)

講師 八本松町篠本派布教使
岡本 法治師

三月七日(木)午前九時、午後一時

春彼岸会(はるひがんえ)

講師 当山住職
テーマ:領解文について

を見て愚痴を吐き妬み強がってばかり。そんな状態の時に釈尊はただ無言で聞くのみです。やがて求めに応じてたくさんのお話を示すけれど、その中心になるものはただ一つ、それを選んだ韋提希に釈尊は微笑まれた。よくぞ選んでくれた、今こそ阿彌陀の教えを説くべき時だ、という瞬間なのです。

親鸞さまは観無量寿経のお心をここに頂いてくださいました。たしかに釈尊は諸仏の世界をお教えくださいました。それぞれの仏道を進むことができる人もおられるでしょう。できるのであればそれよりも大事なことです。多くの

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

努力や悩みを重ねながらも、しかし人生の困難に陥ってどうすることもできず進退窮まったその時に進むべき道、選ぶべき大切な教えはただ一つ、多くの仏さまのことをお説きくださった釈尊がこの世にお出ましくだ

仏事作法③

数珠について

「信は莊嚴より起る」といいます。信仰とはきれいに整えられた仏前で育まれるのであるから、私を手を合わす場を持つているということは大切なことだということでしょう。私たちは「これは大切なことなのだ」と先人方々から、言葉よりもむしろ姿によって教えられて参りました。この大切なことであればこそ、私たちはその意味を踏まえて美しく丁寧に整え、守り伝えたいものであります。



親鸞さまの肖像画はいくつかありますが、いつもお数珠をつま繰りながら描かれています。

さった本当の目的はここにこそあるのだということ、親鸞さまは正信偈のこの二句に込めておっしゃってられるのです。

編集後記

令和五年も慌ただしく過ぎ、

新年を迎えました。でもあまりめでたく思えないのは戦争、事件、不安なことを日々知らされながらどうすることもできずにいるからでしょうか。

親鸞さまは八百年前の武家社会初期の争乱真つただ中を嘆き悲しみながらも「世のなか安穩なれ、仏法ひろ

まれ」と仰せでありました。世の人が互いに尊び合う世になることを祈るような思いでおられたのです。

現代に生きる私たちも同様、そのような世へ近づいていきますことを願わずにおれません。

今回は身近な法具である数珠についてお話いたします。

数珠は逆さまにして珠数とも書かれ、誦念の珠の意味で念珠とも呼ばれます。

数珠の起源は古く、釈尊以前からインドで用いられていた礼拝法具であったといえます。釈尊が習慣として数珠を用いることをお教えくださったことが「木櫛子経」のなかで次のように紹介されています。

難陀国の波瑠璃王が釈尊に「我が国は貧しく、兵乱は絶えず疫病は常に流行し人民は困窮している。仏法の功德は広大と聞くがその余

いであるならば、木櫛子(むくじ)の末(すえ)一百八を貫いて常に持ち歩くようになさるがよい。

心が乱れるとき落ちて三帰依文を唱えながら「木櫛子を振りなさい。そのことが次第に悩みを離れる助けとなりませう」王は大いに歓喜し釈尊を頂礼し、早速木櫛子の数珠を作らさん作らせ多くに与え、王自らも常に携え誦念しておられた。

また「数珠功德経」などには珠数の多少、用材や用法などに詳細に説示されているといえます。種々に数珠の説明がされていますが、珠数はいずれも一〇八の数を基本としあるいは軽便にその約数の五四、三六、二七、一八の珠数に仕立てることになるようです。

全仏教徒共通の法具として各宗派で数珠が用いられるのですが、扱い方には大きな違いがあります。①誦念の数取りのため、②磨り鳴らしながらの礼拝、③つま繰りまわす、④ただ手に懸けつるして礼拝、大きく

念仏の数が必要であるならば第一の扱い方、煩惱を磨り減らすためであれば第二の扱い方ですが、浄土真宗とは相いれない考えなのでこのようには取り扱いません。

親鸞さまの数珠の持ち方は第三のつま繰りまわすお姿で描かれています。数取りでなく磨り鳴らすのでもなく、ただ繰りまわすお姿です。このよう

な持ち方が一般的であった時代だといえます。現代の私たちは第四のただ手に懸けつるして礼拝としています。親鸞さまのお姿と矛盾しているように思

いますが、江戸時代の学僧方が「時宜に随うべし」と理解を求められました。そう受け取ると、親鸞さまのつま繰りまわすような数珠の持ち方は当時の風習にあわされたお姿であるということなのでしょう。

合同墓・墓地案内

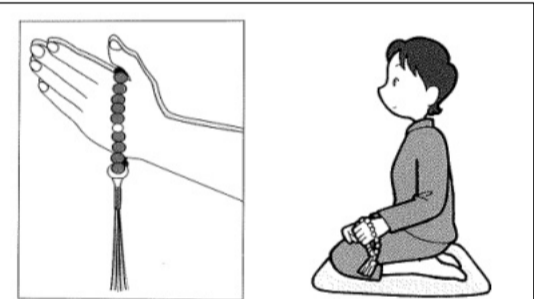
有縁の皆さんでおまもりしている合同墓と一般墓地があります。縁ある多くの方にご利用いただきたいと思います。



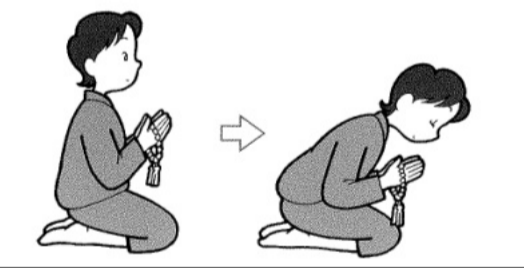
妙徳寺ホームページ

<http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/>

内容の更新を心がけています。



浄土真宗では左上イラストのように合掌した両手に数珠をかけます。片手だけにかけての合掌はしません。右上イラストのように合掌しないときは利き手ではない側、通常は左手に保持します。下のような姿勢で合掌し、お念仏申してからゆっくり礼拝いたしましょう。



(「浄土真宗仏事作法なんでも大事典」2002年中国新聞社発行 よりイラスト引用)

数取りのためでも煩惱を磨り減らすためでもなく、ただ手に持つのみとは何のためかということについて、ある書物に「真宗は固より数珠をもって往生の要にするに非ず、ただ仏家の通儀なれば之を持つのみ」とあることが大切に思われます。ただ仏教徒の心得として携え持つことに意味があるのだ、と言われるのです。

「数珠の一連をも持つ人なし、さるほどに仏を手づかみにこそされたり、聖人全く数珠を捨ててて仏を拝めと仰せられたる」(次号)続く

志和組テレホン法話「みのりの電話」

082-433-4989

- 1月 1日～ 光源寺 堀 靖史
- 1月 11日～ 報専坊 松島 純以
- 1月 21日～ 天龍寺 天野 由昭
- 2月 1日～ 長松寺 笠岡 潤聖
- 2月 11日～ 照栄寺 井口 英隆
- 2月 21日～ 西方寺 安國 智乗
- 3月 1日～ 西蓮寺 西浦 憲雄
- 3月 11日～ 天龍寺 天野 英昭
- 3月 21日～ 浄蓮寺 沼田 成子

志和、八本松川上地区の本派寺院13カ寺のテレホン法話です。3分程度のお話を24時間いつでもお聞きいただけます。ぜひ、電話でもお聴聞してください。

「写経の会」

1月 26日(金) 2月 23日(金) 3月 22日(金)

それぞれ午後2時より

申し込みは代表_西本さん(428-2466)、または妙徳寺へ

「生きていくための仏の教え仏教基礎講座」

1月はお休み 2月 10日(土) 3月 9日(土)

それぞれ午後2時より

申し込みは代表_廣川さん(428-5935)、または妙徳寺へ

「妙徳寺仏教壮年会例会」(原則毎月第2土曜日)

1月 未定 他寺仏壮との新年会(交流会)

2月 10日(土) 午後6時より 定例会

3月 9日(土) 午後6時より 寺報編集会議

「書道教室」

ホームページ内の「行事カレンダー」に稽古日を掲載しています。妙徳寺LINEでも随時お知らせいたします。(毎月3回程度の金曜日 午後2時半～午後5時の間)



※金谷雷聲先生(蕾門会)による幼児・児童・大人対象、硬筆・毛筆教室です。申込は金谷先生のお電話0823-82-9565または妙徳寺へご連絡ください。

「おみのりサロン」開催予定日

1月 29日(月) 2月 22日(木)

3月 26日(火) 午後2時より1時間半

(住職が本堂に待機、相談をお受けします)